

診療放射線技師：技術革新が現場作業に与える影響

県立安芸津病院 | 守本京平

ICT技術革新は、診療放射線技師の現場作業に、①情報管理、②作業効率、③新たなスキルの習得において大きな影響を与えている。医療DX時代を生きる診療放射線技師は、医療領域の新たな価値創造と医療変革が推進される現在において、キャリア・アンカーを革新し、社会的ニーズの実現に向けた新たなキャリア形成が重要と考える。

ICT innovation is having a significant impact on radiologists' field work in (1) information management, (2) work efficiency, and (3) acquisition of new skills. Radiologists living in the era of medical DX consider it important to innovate their career anchors and develop new careers to realize social needs at a time when the creation of new value in the medical field and medical reform are being promoted.

はじめに

1990年代後半より情報通信技術(Information and Communication Technology : ICT)（以下、「ICT」という）の技術革新にて医療の質の向上を目指したICT利活用が推進されてきた。2020年からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックでは、日本医療の多くの課題、特に医療DXの遅れが顕在化している。今後は、従来の社会保障制度改革の医療改革ではなく、医療DXによる医療改革へのパラダイムシフトが求められている¹⁾。こうした中で、我が国が直面する重要な政策課題は、少子高齢化・人口減少への対応である²⁾。近年、医療需要が大きく変化する中で医療機関の経営状況は厳しさを増し、公立・公的病院をはじめとして統合・再編成が散見されており、今後も増加していくことが見込まれ

ている。こうした医療を取り巻く外部環境の大きな変化は、医師・看護師不足が大きな要因としてあり、2024年4月からスタートした医師の働き方改革への対応が求められていることからも医療従事者のタスクシフティング推進が期待されている。診療放射線技師においても例外ではなく、タスクシフティング推進による診療放射線技師法の改正がなされ、現場作業にも変革が求められているが、何よりも診療放射線技師の個々人のキャリア形成にも影響を与えている³⁾。

ICT技術革新が診療放射線技師の現場作業に与えた影響

ICTの技術革新は、診療録、診療補助記録など電子化による情報量の増大とともに、これら医療情報の利活用が推進されたことで多くの医療機関の現場では医療

の質向上が高まることは言及するまでもないであろう。診療放射線技師の現場作業では、この30年ほどを振り返り考えてみると、①情報管理、②作業時間、③スキルの3つに大きな影響を受けたと考えられる。

1つ目は、ICT技術の進化にともなうアナログ時代の情報管理からデジタル時代への電子化による情報管理への変革である。我が国における医療情報のデジタル化の歴史は1960年代から1970年代に遡るが、急速な進展がみられるのは1990年後半から2000年以降である。診療放射線技師が取り扱う放射線画像では、1992年に誕生した国際標準規格DICOM(Digital Imaging and Communications in Medicine)によりモダリティ間における相互運用性が高まり、フィルム運用からデジタル運用への移行が急速に進んでいる。またもう一つの要因としては、国の政策であるIT基本法に基づいたIT国家戦